

# こころ

2020

9

通巻第 590 号  
2020 年 9 月 6 日 発行 (毎月 1 回 発行)  
〒 106-0031 東京都港区西麻布 3-21-6  
Phone (03) 3408 - 1500  
FAX (03) 3408 - 2575  
<http://www.azabu-catholic.jp>

カトリック麻布教会  
こころ編集部

密雲と濃霧が主の周りに立ちこめ 正しい裁きが王座の基をなす。  
火は御前を進み 周りの敵を焼き滅ぼす。  
稲妻は世界を照らし出し 地はそれを見て、身もだえし  
山々は蠟のように溶ける 主の御前に、全地の主の御前に。  
天は主の正しさを告げ知らせ すべての民はその栄光を仰ぎ見る。  
(詩 97・2-6)

闇の中を歩む民は、大いなる光を見 死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。(イザヤ 9・1)



白馬岳から戸隠方面を望む 朝 (2015年)



硫黄岳の朝 (2015年)

神よ、天の上に高くいまし 栄光を全地に輝かせてください。(詩 57・6)

大いなる主、限りなく賛美される主。わたしたちの神の都にある聖なる山は 高く美しく全地の喜び。(詩 48・2-3a)



燕山荘から望む大天井岳と檜ヶ岳 (2014年)



白馬岳 (2015年)



チングルマとチングルマの綿毛 (白馬岳2015年)



クルマユリ (白馬岳2015年)

露のようにわたしはイスラエルに臨み 彼は  
ゆりのように花咲き レバノンの杉のように  
根を張る。

その若枝は広がり オリーブのように美しく  
レバノンの杉のように香る。(ホセア 14・6-7)



山百合 (高尾山2020年)

どうか、主があなたを助けて  
足がよろめかないようにし  
まどろむことなく見守ってくださるように。  
見よ、イスラエルを見守る方は  
まどろむことなく、眠ることもない。主はあ  
なたを見守る方  
あなたを覆う陰、あなたの右にいます方。  
昼、太陽はあなたを撃つことがなく  
夜、月もあなたを撃つことがない。(詩121・  
3-6)



金峰山 (2014年)

神がわたしたちを憐れみ、祝福し 御顔の  
輝きを わたしたちに向けてくださいます  
ように  
あなたの道をこの地が知り 御救いをすべ  
ての民が知るために。(詩67・2-3)



神よ、わたしの叫びを聞き わたしの祈りに耳を傾けてください。心が挫けるとき 地の果てから  
あなたを呼びます。 高くそびえる岩山の上に わたしを導いてください。(詩61・2-3)



思い起こせ、ヤコブよ イスラエルよ、あな  
たはわたしの僕。 わたしはあなたを形づく  
り、わたしの僕とした。 イスラエルよ、わ  
たしを忘れてはならない。わたしはあなたの  
背きを雲のように 罪を霧のように吹き払っ  
た。 わたしに立ち帰れ、わたしはあなたを  
贖った。(イザヤ44・21-22)



右上・中央2枚：別山尾根(立山・剣岳)(2016年)  
右下：針ノ木岳・蓮華岳を望む 雨上がりの夕方(2009年)

主よ、わたしはあなたを呼びます。速やかにわたしに向かい  
あなたを呼ぶ声に耳を傾けてください。  
わたしの祈りを御前に立ち昇る香りとし  
高く上げた手を  
夕べの供え物としてお受けください。(詩141・1-2)



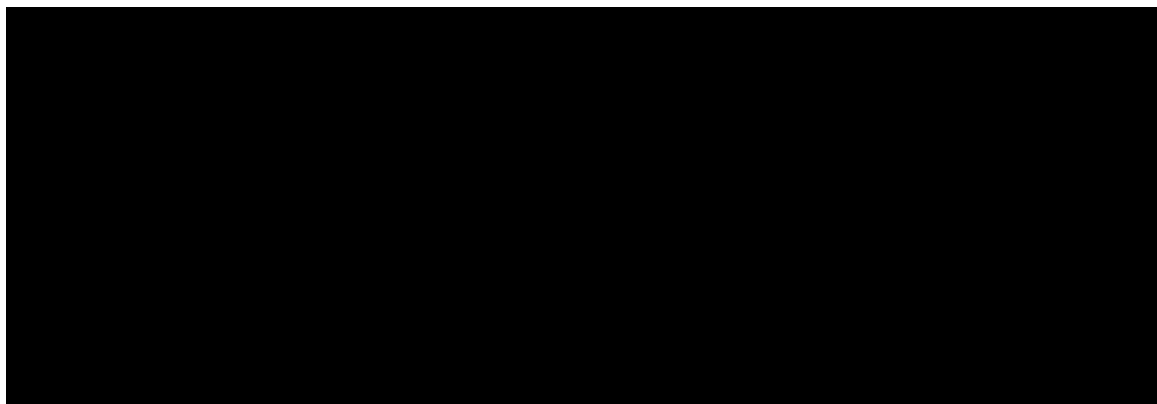
穂高岳山荘から見る夕陽 (2008年)

およそ鍛錬というものは、当座は喜ばしいものではなく、悲しいものと思われるのですが、後になるとそれで鍛え上げられた人々に、義という平和に満ちた実を結ばせるのです。(ヘブライ12・11)

試練を耐え忍ぶ人は幸いです。その人は適格者と認められ、神を愛する人々に約束された命の冠をいただくからです。(ヤコブ1・12)

万物の終わりが迫っています。だから、思慮深くふるまい、身を慎んで、よく祈りなさい。何よりもまず、心を込めて愛し合いなさい。愛は多くの罪を覆うからです。不平を言わずにもてなし合いなさい。あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。

(Iペトロ4・7-10)





オクラ (左) とスイカ (右)



ユウガオ：夕方咲いて、朝には萎んでしまいます。



←↑メきゅうりとトマトがたくさん採れました。



マクワウリはほぼ終わり (株が疲れてきて、今シーズンはおしまい)。皆さんに配れないのが残念です。

## 被造物の正しい使用：愛の掟の要求

モーゼ 瀬本 正之 イエズス会司祭

お引き受けしたのが一月前。すぐに手を付けようと覚悟したはずの広報誌「こころ」用原稿の作成。そのメ切日がとうとうやってきました。コロナ禍のまっただなか、筆記試験がレポートに替えられ、山ほどの提出課題と格闘しながら学期末のメ切日を迎えたであろう学生たちの切羽詰まった思いが伝わってくるようです。

今回の寄稿依頼は9月の「きょうをささげる」の意向に因むものです。現教皇フランシスコの回勅『ラウダート・シ』の翻訳者の一人であれば、「地球資源の尊重（世界共通の意向）」と「すべての被造物の尊重（日本の教会の意向）」に関連して、何か書けるだろうと思われたのでしょうか。

回勅の翻訳中に経験した、嬉しかったことや苦しかったこと、力づけられたことや落胆させられたこと、なぐさめやすさみについて語らせていただく、と一度は考えました。でも考え直して、この機会にわたしが皆さんに紹介しなくては、と思うことを書かせていただくことにします。それは、2020年5月9日付の日本カトリック司教協議会による「すべてのいのちを守るための月間」設置のお知らせ（以下、「お知らせ」）です。すでに知っておられる方もおありでしょうが、カトリック中央協議会のホームページをお訪ねくだされば、見つかります。そこにある「すべてのいのちを守るためのキリスト者の祈り」は、『ラウダート・シ』の巻末にある祈りと響き合う内容で、カード用にダウンロードできるよう、工夫されてもいます。

この「すべてのいのちを守るための月間」設置は、明らかに、昨年11月の教皇訪日のテーマ「すべてのいのちを守るため」に呼応するものですが、回勅『ラウダート・シ』の発表

から5年目にあたる今年の5月16日～24日を「ラウダート・シ週間」と定めた教皇の思いに沿うものでもあるようです。

全被造物を射程に収める教皇の思いを貫くエキュメニカルな連帯意識について、「お知らせ」は脚注の中で触れています。1989年に9月1日を「被造物のために祈る日」と定めた正教会につづき、2007年からはキリスト教の諸教会・共同体が挙って9月1日～10月4日を「被造物保護期間」としてきました。カトリック教会もこうしたエキュメニカルな歩みに合流することを教皇は強く望み、同期間を「被造物の時節」とし、ふさわしい祈りと然るべき行動の機会とするようにと呼びかけています。

教皇とともに、今、わたしたちは皆、「地球の叫び」と「貧しい人の叫び」がこれ以上の放置を許さないものにまで達しているという事実を、まずもって、真摯に認めなければなりません。「お知らせ」が「今必要な行動・活動例」として挙げる、①資源の消費・浪費・廃棄量の削減（水・電気・食料など）、②化学物質を含む洗剤やプラスチック製品など、環境汚染物質の不使用、使用量の削減、③美化活動（海浜、里地里山、街中など、身近な場所でのゴミ拾い・清掃）はどれも、「きょうをささげる」の9月の意向である「地球資源の尊重」や「すべての被造物の尊重」につながる取り組みです。しかし、それらが、かの耐え難い「叫び」に動かされた願いと望み、祈りと働き、決意と行動として実を結ばないとすれば、「被造物の時節」にふさわしい祈りとも、「すべてのいのちを守るための月間」に然るべき行動とも言えないでしょう。

コロナ禍にあって、わたしは、自分という

存在はいのちあるものが生きていくために必要な環境(条件)の一部であるという事実を、改めて、思い知りました。わたしの振る舞いが、ささやかなものであっても、他者の生き死にをすら左右することがあり得るのだと実感させられたのです。「すべてのものはつながっている」、『ラウダート・シ』の中で幾度も出会う教皇の言葉です。エコロジーの真髓を喝破するこの言葉は、わたしたちは、空間的にも時間的にも、否が応でも影響を与え合いながら生きていく存在だ、という真実に目を開かせてもくれます。そこには、神から「あなた」と呼びかけられるものとして造られたわたしたち人間一人ひとりの担うべき責任が隠されています。「いのち」は、いつもすでに、その「環境」を伴っています。「いのちを守る」ためにはその「環境を守らねば」なら

ず、「環境を守る」ことはそこで生を営む「いのちを守って」はじめて意味あるものとなるのです。

「神を神として大切にし、人を人として大切にせよ」というもっとも重要な愛の掟を生きるには、被造物を被造物として大切にすることが必要になってきます。わたしたちは、被造物を然るべく用いることなしに、神を神として大切にし、人を人として大切にすることができのでしょうか。神への愛と人への愛が、不使用の場合を含め、被造物の正しい使用を求めるのです。

先に触れた「すべてのいのちを守るためのキリスト者の祈り」をもって、本稿の締め括りとさせていただきます。

宇宙万物の造り主である神よ、  
あなたはお造りになったすべてのものをご自分の優しさで包んでくださいます。

わたしたちが傷つけてしまった地球と、  
この世界で見捨てられ、忘れ去られた人々の叫びに  
気づくことができるよう、  
1人ひとりの心を照らしてください。

無関心を遠ざけ、  
貧しい人や弱い人を支え、  
ともに暮らす家である地球を大切にできるよう、  
わたしたちの役割を示してください。

すべてのいのちを守るため、  
よりよい未来をひらくために、  
聖霊の力と光でわたしたちをとらえ、  
あなたの愛の道具として遣わしてください。

すべての被造物とともに  
あなたを賛美することができますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。  
アーメン。

(2020年5月8日 日本カトリック司教協議会認可)

## コロナ禍での公開ミサ続く

6月24日から始まった、人数を限定した公開ミサも2ヶ月ほど経った。新規陽性者の数は一向に減らず、また世界的にも欧州各国、韓国、レバノンといった国々でも再び感染者が増加している。菊地大司教様は8月23日の大司教の日記において、「新規陽性者の報告も続く中、今の段階の感染はそろそろピークに到達しているのではないかという専門家の指摘も聞かれるようになりました。幸い、教会においてクラスターが発生するような事態はこれまで報告されていませんが、以前にも記したように、それが教会の行う活動制限や感染症対策の効果なのか、はたまた現在の感染症の状況がそういう程度なのかは、簡単に判断出来るものではありません。もっともさまざまな体験を積み重ねる中で、解明されたことも専門家からは多く報告されていますが、未知の部分も多々あり、いのちを守るために、現時点ではやはり慎重な行動をとることが賢明だと思われます。」と書かれている。しばらくは制限下の公開ミサを続けることが必要であろう。

麻布教会での制限下での公開ミサでは、地区委員が交代でアナウンスや参加者への対応を行っている。2ヶ月の間の試行錯誤で、委員からいろいろな意見が出され、現在は次のような取り組みを行っている。

1. 7月24日から参加者に検温を行ってもらい、参加者カードに記載してもらっている。記入していただいたカードは献金箱の横に回収箱を置いて退堂時までに入れていただくようご協力をお願いしている。
2. 2ヶ月経ち信徒の皆様も今のやり方に慣れてこれたということで、なるべく会話をしない、という原則に戻り、ミサ前のアナウンスも下記3点に絞って行われている。
  - 検温と出席カードを書いていた
  - 献金はミサ終了後
  - マスク着用
3. 併せて以下も徹底して行われている。
  - 朗読台のマイクのスイッチは切らない。
  - アナウンス用、共同祈願用のハンドマイクの消毒を行う。
  - 朗読台のマイクも使用前とミサ後に消毒する。
4. また、共有物の使用を避けるため、「共に捧げるミサ」や「ミサ式次第」の貸し出しは行っていない。ご自分の「共に捧げるミサ」をお持ちいただく。「使徒信条」のカードは使い捨てではなくご再度ミサに来られる時にご持参いただく。
5. 8月30日からは、参加者カードの英語版も用意することとした。

(広報部会)

### お知らせ

幼稚園側の塀の改修について：幼稚園側の塀について、冬休み中に門柱の手前まで改修工事を行うこととなりました。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い今後の見通しが立たないため、今号もスケジュールの掲載はいたしません。  
(編集担当 高岡詠子)